

第七次甲府市総合計画策定に向けた
若者ワークショップ
～The future after 10 years～

報 告 書

令和 7 年 3 月
甲 府 市

目次

1. 概要	1
1.1. 目的	1
1.2. 日時	1
1.3. 開催場所	1
1.4. 出席者	1
1.5. テーマ	1
2. 当日の実施内容	2
2.1. プログラム	2
2.2. 当日レイアウト	2
2.3. 開会の挨拶・趣旨説明	2
2.4. グループワーク	4
2.4.1. グループワークの流れ	4
2.4.2. グループワーク詳細	5
3. ワークショップの実施結果	10
3.1. 意見の一覧（甲府市の良いところ/改善点）	10
3.2. 意見のまとめ（甲府市の良いところ/改善点）	16
3.3. 意見の一覧（困っていることとやってあげたいこと）	17
3.4. 意見のまとめ（困っていることとやってあげたいこと）	23
3.5. グラフィックレコーディング	24
3.6. 閉会の挨拶	25
4. 参考資料	26
4.1. 集合写真	26

1. 概要

1.1. 目的

本ワークショップは、以下を目的として実施しました。

- ・ 第七次甲府市総合計画策定に向け、若者がチャレンジしたくなるまちの姿を実現するため、若者目線の意見や提案を収集する
- ・ 若者と地域との協働、市民参加の機運を醸成する

1.2. 日時

令和6年12月16日（月）18時30分から21時00分まで

1.3. 開催場所

甲府市役所 6階大会議室

1.4. 出席者

【参加者】

甲府市に関わりのある15歳以上29歳以下未満の方を対象とした一般公募市民 30名

【事務局】

甲府市総合計画担当（今村、宮野、保坂、小池、深澤）

株式会社セカンドファクトリー（齋藤、横須賀、谷川）

アビームコンサルティング株式会社（陸川、烏川、大森）

1.5. テーマ

【若者が住みたく将来のまちづくりの提案】

若者目線の甲府市の理想の未来像を『カタチ』にする。甲府市でのチャレンジ（好き・得意を発揮する/今後やってみたいこと）を考え、参加者が未来のまちに望んでいることや、それを実現するためのアクションを考えてもらう。

2. 当日の実施内容

2.1. プログラム

当日は以下の流れに沿って実施しました。



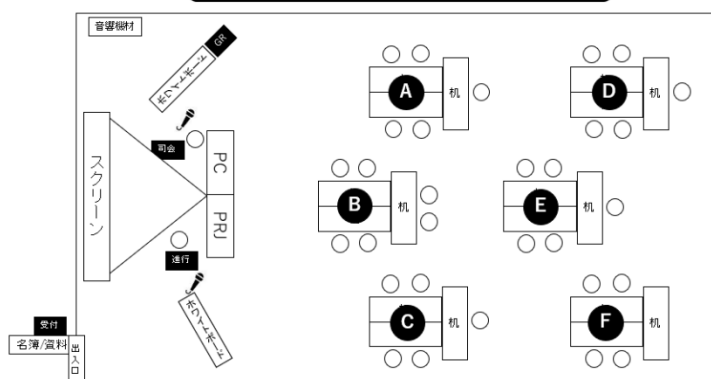
図表 1 当日の流れ

2.2. 当日レイアウト

当日は以下のレイアウトで実施しました。参加者を6グループに分け、1グループあたり4～6名の人数でグループワークを行いました。

会場レイアウト

4-6名×6班＝30名



図表 2 当日レイアウト

2.3. 開会の挨拶・趣旨説明

企画部奈良田部長からワークショップ参加者に向けて、開会の挨拶、社会ニーズに応じた今後の市政方針についてお話しいただきました。また、企画部政策課今村課長から、甲府市総合計画及び甲府市の歳出決算額について説明し、アビームコンサルティング鳥川から、甲

府市を取り巻く時代の潮流・社会の動向について説明しました。



図表 3 開会挨拶・趣旨説明の様子

2.4. グループワーク

全体説明の後、参加者の自己紹介（チェックイン）を行い、グループワークを実施しました。グループワークでは、グループ毎にディスカッションを行い、最後にすべてのグループが発表を行いました。グループワークの流れと、それぞれの詳細内容は以下のとおりです。

2.4.1. グループワークの流れ

グループワークは進め方の説明から始まり、グループディスカッション①では、個人ワークを通じて考えた意見について、グループ内でディスカッションをした後、中間発表を行いました。グループディスカッション②では、①を踏まえ、個人ワークを行い、再度グループ内でディスカッションをした後、最終発表を行いました。詳細な流れは以下のとおりです。

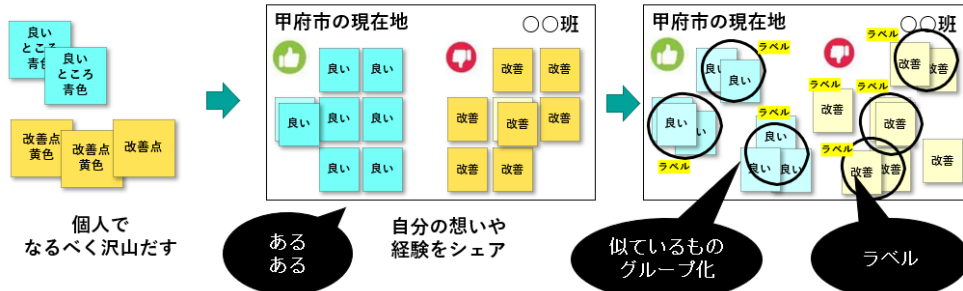
グループディスカッション①

25分

日常生活を通して感じる甲府市の 良いところ/改善点をあげてみよう

個人記入（10分）

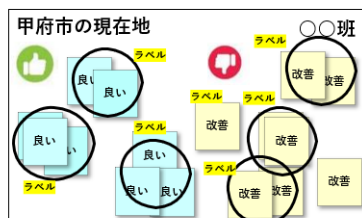
グループにシェア＆グルーピング（15分）



グループディスカッション① グループ発表

5分

甲府市の良いところ/改善点 どんなグループが見つかりましたか？



図表 4 グループディスカッション①の流れ

10分

25分

投票&アイデアの整理+未来予測（10分）

- ・ 共感度の高いものにシールで投票(1人3個)
- ・ 支援・協力で若者はどんな変化がおきるのか？
- ・ その結果としてまちの未来はどうなるのか？

20分

- ・ 困っていたり/求めていること
- ・ 共感性が高かったり印象的な支援や協力アイデア (どんな困りごとを解決するのか)
- ・ 若者が活躍することでまちがどのように変化していき どんな未来になるか?

図表 5 グループディスカッション②の流れ

(1) 全体説明

グループディスカッションの進め方について、④全体説明を行いました。実施するグループワークについての説明として、テーマやワーク時のグラドルールなどの確認を行いました。



図表 6 全体説明の様子

(2) 自己紹介

最初のワークとして、アイスブレイクも兼ねて自己紹介を行いました。ワークシートを用いて、「甲府市の良いところ・改善してほしいところ」「参加した理由」「似顔絵・ニックネーム」を各人で記入した後、グループ内で自己紹介しました。



図表 7 自己紹介の様子

(3) グループディスカッション①

個人ワークであげた、日常生活を通じて感じる「甲府市の良いところ/改善点」をグループ内で共有しました。その後、中間発表に向け、各グループでアイデアを整理しました。



図表 8 グループディスカッション①の様子

(4) 中間発表

グループディスカッション①のまとめとして、「甲府市の良いところ/改善点」についてグループで話し合った結果を発表しました。



図表 9 中間発表の様子

(5) インスピレーショントーク

グループディスカッション②へのインスピレーショントークとして、学生を中心としたボランティアサークル「甲斐縁隊」の代表を務める梅田海咲さんから、「地域でチャレンジしたこと」を紹介していただき、若者が実際にチャレンジしてみて自分に返ってきたこと、苦労したこと、学んだことをワークショップの参加者に共有しました。

若者トーク

10分

甲府市でまちづくりに関する活動を行っている
若者の話を聞いてみよう

- どんな活動をやっているのか？
- どんなおもいでやっているのか？
- どんな課題があるのか？

若者が活躍できるまち「甲府市」の実現にむけて
どんな支援や協力ができるのか？を考えてみよう。



梅田海咲さん
(うめだみさき)

図表 10 インスピレーショントーク資料

(6) グループディスカッション②

グループディスカッション①を踏まえ、地域で若者がもっと活躍できるような支援・協力のアイデアを個人ワークで考え、グループで意見交換を行いました。最終発表に向け、各グループで発表資料の最終化を行いました。



図表 11 グループディスカッション②の様子

(7) 最終発表

グループワークの最後のまとめとして、地域で若者がもっと活躍できるような支援・協力のアイデアについて話し合った結果をグループ毎に発表しました。



図表 12 最終発表の様子

3. ワークショップの実施結果

ワークショップを通じて、甲府市に関する多くの意見が出ました。各グループが話し合った内容や発表した意見は以下のとおりです。

3.1. 意見の一覧（甲府市の良いところ/改善点）

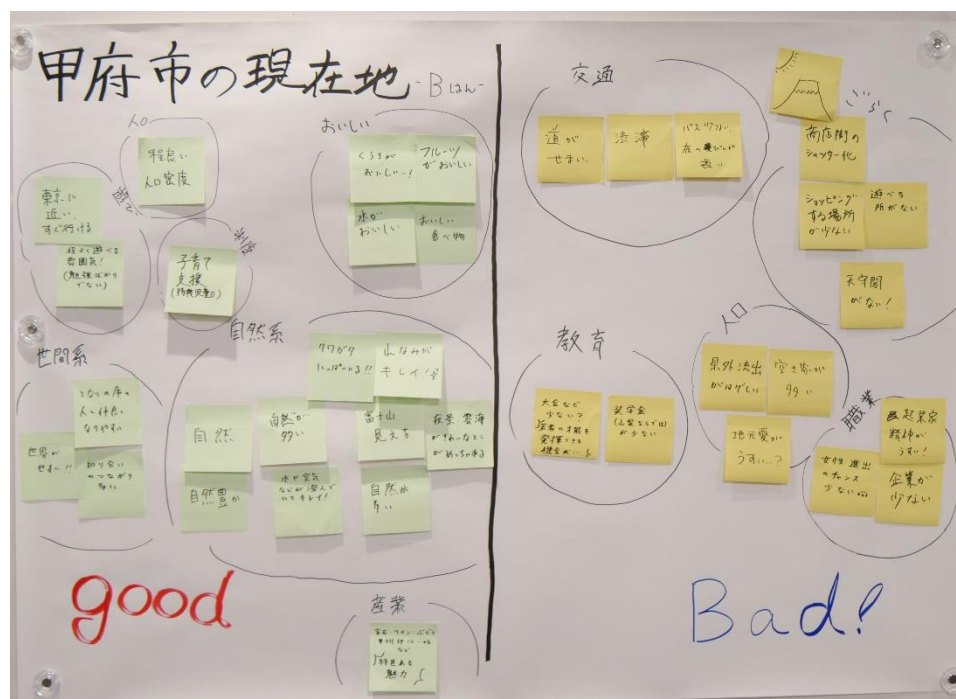
各グループより出された意見をまとめました。

<A班>	
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・ 知り合いが多い。 ・ 人と人の距離が近い。 ・ 地域の人とのつながりがある。 ・ 都会と田舎のバランスが良い。 ・ 独特な方言がある。 ・ 水、食べ物がおいしい。 ・ 自然が豊か。 ・ 緑が多い。 ・ 景色がきれい。	・ 夏に暑く冬が寒い。 ・ ヴァンフォーレ甲府が現状強くない。 ・ 市民が意外と甲府・山梨について知らない。 ・ 他県と比べすぎている。 ・ 夜道が暗い。 ・ 人口が減っている。 ・ 中心街がシャッター街になっているところがある。 ・ 遊ぶ場所が少ない。 ・ 駅が少ない。 ・ 車がないと生活できない。



図表 13 発表用模造紙①（A班）

<B班>	
甲府市の良いところ： ・東京に近い。 ・程よく遊べる雰囲気。 ・程よい人口密度。 ・子育て支援が充実している。 ・果物など食べ物がおいしい。 ・水がおいしい。 ・自然が豊か。 ・山並みがきれい。	甲府市の改善点： ・道が狭い。 ・渋滞している。 ・バスが少ない。 ・大会が少ない。 ・奨学金が少ない。 ・人口の県外流出が多い。 ・地元愛が薄い。 ・空き家が多い。 ・商店街がシャッター街になっている。 ・買い物できる場所が少ない。 ・遊ぶ場所が少ない。 ・起業家精神が薄い。 ・企業が少ない。 ・女性活躍が進んでいない。



図表 14 発表用模造紙① (B班)

<C班>	
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・自然が豊か。 ・夜景がきれい。 ・水がおいしい。 ・文化を大切にしている。 ・イベントが多い。 ・おいしいお店が多い。 ・都心から近い。 ・都会と田舎の中間で住みやすい。 ・駅の周りの歩道が広くて安全。 ・果物・宝石など全国に誇れる産業がある。 ・水素エネルギーの施設がある。 ・人と人とのかかわりが密接。 ・人が穏やか。	・交通の便が悪い。 ・車がないと不便。 ・車の渋滞がある。 ・子どもや若者が遊べる場所が少ない。 ・年齢問わず集まれる場所が少ない。 ・お店の営業時間が短い。 ・子育てに厳しいといううわさがある。 ・給食が無償化していない。



図表 15 発表用模造紙① (C班)

<D班>	
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・ 自然が豊か。 ・ 静か。 ・ 富士山が見える。 ・ 飲食店などのコミュニティが多くあり活動的。 ・ 地元の人が温かい。 ・ 人と人との距離がちょうどいい。 ・ コミュニティ、地域とのつながりがある。 ・ 治安が良い。 ・ コンパクトシティ。 ・ 古くからのお店が多い。	・ 交通の便が悪い。 ・ 自転車にやさしくない。 ・ 電車の本数が少ない。 ・ 車なしでの生活が難しい。 ・ 市外への移動が不便。 ・ 若者の遊び場が少ない。 ・ 地域間のかかわりが少ない。 ・ 既存のコミュニティが強く新参者が入りにくい。 ・ 山梨県内の他地域に観光客が流れる。 ・ 市街地の賑わいがない。



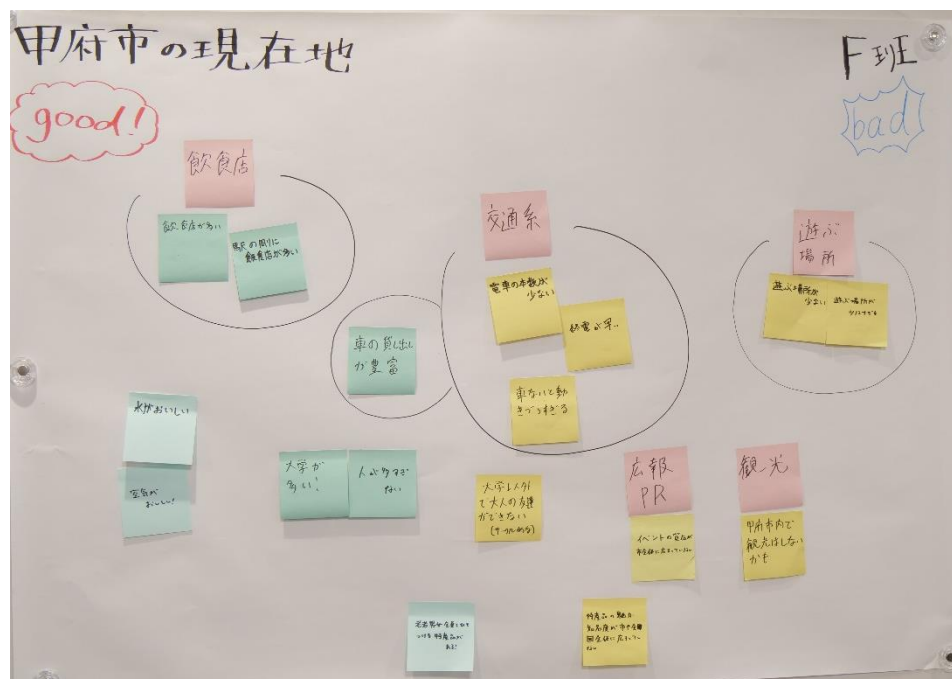
図表 16 発表用模造紙① (D班)

<E 班>	
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・ 自然が豊か。 ・ 良い人が多い。 ・ 少子化過ぎず高齢化過ぎない。 ・ 図書館がある。 ・ 学校が多い。 ・ 中央線の駅がある。 ・ 野菜や果物が豊富。 ・ 土地が有効活用されている。	・ 人口が減っている。 ・ 交通の便が悪い。 ・ 通学路にガードレールがない。 ・ 遊べる場所が少ない。 ・ 公園が少なく空き地が多い。 ・ 名物のパンチがない。



図表 17 発表用模造紙① (E 班)

<F 班>	
甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・ 飲食店が多い。 ・ 水、空気がおいしい。 ・ 大学が多い。 ・ 人の量がちょうどいい。 ・ 車の貸し出しが豊富。 ・ 特産品がある。	・ 電車の本数が少ない。 ・ 終電が早い。 ・ 車がないと生活が大変。 ・ 遊ぶ場所が少ない。 ・ 大学以外で知り合いができない。 ・ イベントの広報・PR が広まっていない。 ・ 特産品の魅力が伝わっていない。 ・ 観光客が山梨県内の他自治体に流れている。



図表 18 発表用模造紙① (F 班)

3.2. 意見のまとめ（甲府市の良いところ/改善点）

甲府市の良いところとして、自然環境に関する意見が多く出されており、特に水や食に関して好意的な意見が数多くありました。また、富士山、夜景など魅力的な景観があることに加え、東京に近いことや大学の数、図書館の充実など、若者目線での「ちょうどいい田舎」として、都市のバランスが優れているという良い意見が多くありました。

特産品については、野菜や果物、宝石などの様々な特産品があることを評価する意見が多くある一方で、発信力不足でそれらの特産品が広く知られてはいないことを指摘する意見も見られました。

交通環境については、公共交通機関が充実しておらず、車社会のため車なしでは生活しづらいという意見がありました。

経済については、古くからのお店があること、おいしい飲食店があることを良い点としてあげる意見がある一方、若者が遊べる場所や集まれる場所が少ないという意見が数多く指摘されています。市街地の賑わい不足を指摘する意見も見られました。

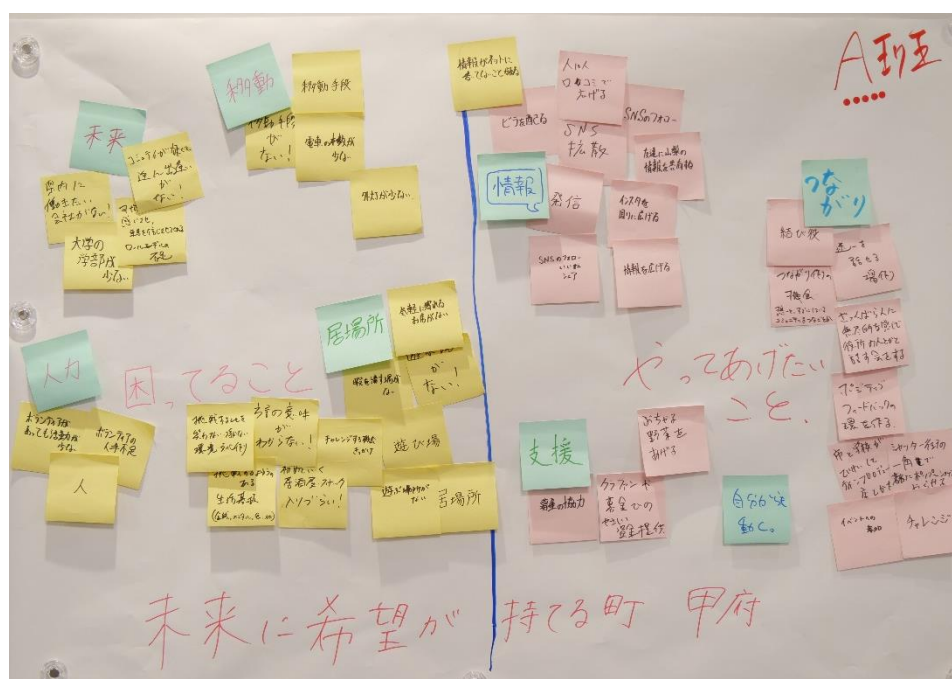
<主な意見>

甲府市の良いところ：	甲府市の改善点：
・自然が豊かである。（水、富士山、夜景など） ・東京から近い ・大学が多い ・特産品が充実している。（野菜、果物、宝石など） ・古くから営業しているお店がある。 ・おいしい飲食店がある。 ・人が良い。（あたたかい、つながりがある）	・発信力が不足している。 ・交通の便が悪く、車なしでは生活しづらい。 ・中心市街地の空洞化が進んでいる。 ・若者が遊べる場所、集まれる場所が少ない。 ・市街地の賑わいが不足している

3.3. 意見の一覧（困っていることとやってあげたいこと）

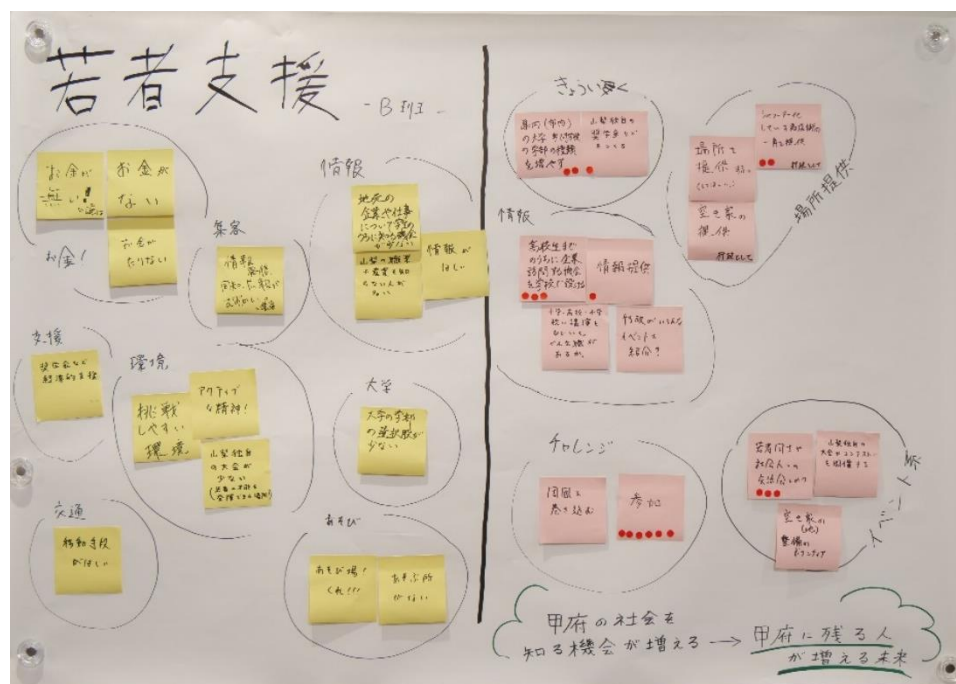
各グループより出された意見をまとめました。

<A班>	
困っていること：	・県内に働きたい会社がない。 ・大学の学部が少ない。 ・交流の場がない。 ・ロールモデルが不足し将来が見えない。 ・ボランティアの場、人手が少ない。 ・移動手段がない。 ・気軽によれるお店がない。 ・遊ぶ場所や集まる場所が少ない。 ・挑戦する場所が少ない。
やってあげたいこと：	・SNS、ビラ配り、口コミでイベントの情報発信をサポートする。 ・つながりを作る機会を作る。 ・交流の場に参加する。 ・自分の持っている情報を共有する。 ・クラウドファンディングや募金に協力する。



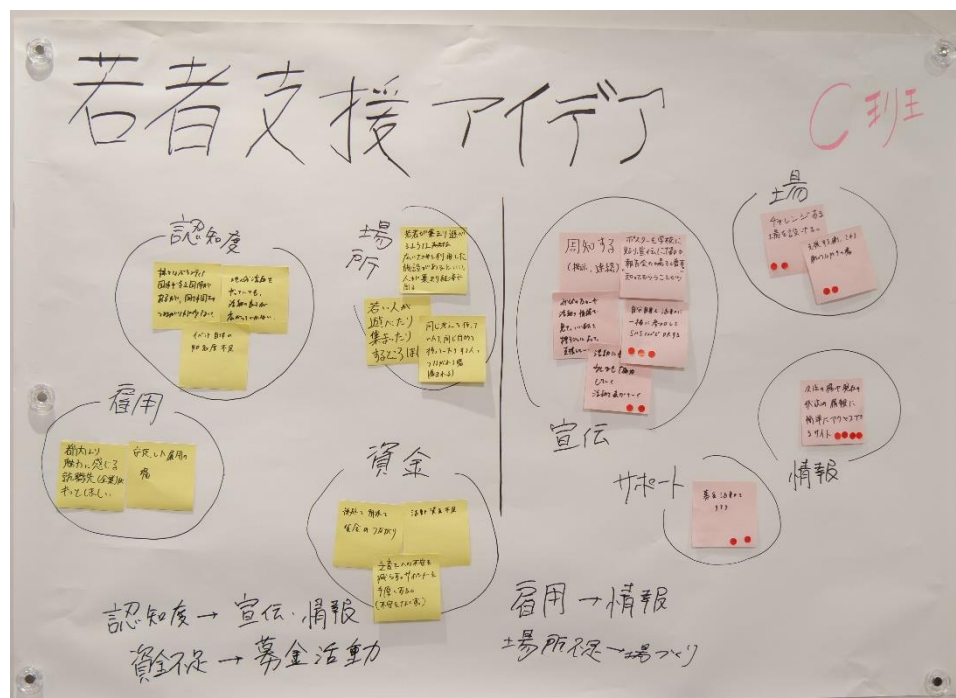
図表 19 発表用模造紙②（A班）

<B 班> 困っていること：	・活動のためのお金がない。 ・挑戦しやすい環境がない。 ・若者の才能を活かす場がない。 ・奨学金などの経済的支援がない。 ・就職などにおいて甲府についての情報がない。 ・大学の学部の選択肢が少ない。 ・移動手段がない。 ・遊ぶ場所が少ない。
やってあげたいこと：	・大学の学部の種類を増やす。 ・甲府市独自の奨学金を作る。 ・学校に甲府の企業の人に話をしに来てもらう。 ・高校生が企業訪問をできるようにする。 ・行政から様々なイベントを紹介する。 ・周囲を巻き込んで行動する。 ・イベントに自ら参加する。 ・才能を活かすことのできるイベントを実施する。 ・若者同士や社会人との交流イベントを実施する。 ・空き家整備のボランティアをする。 ・甲府に残る人が増える未来を目指す。



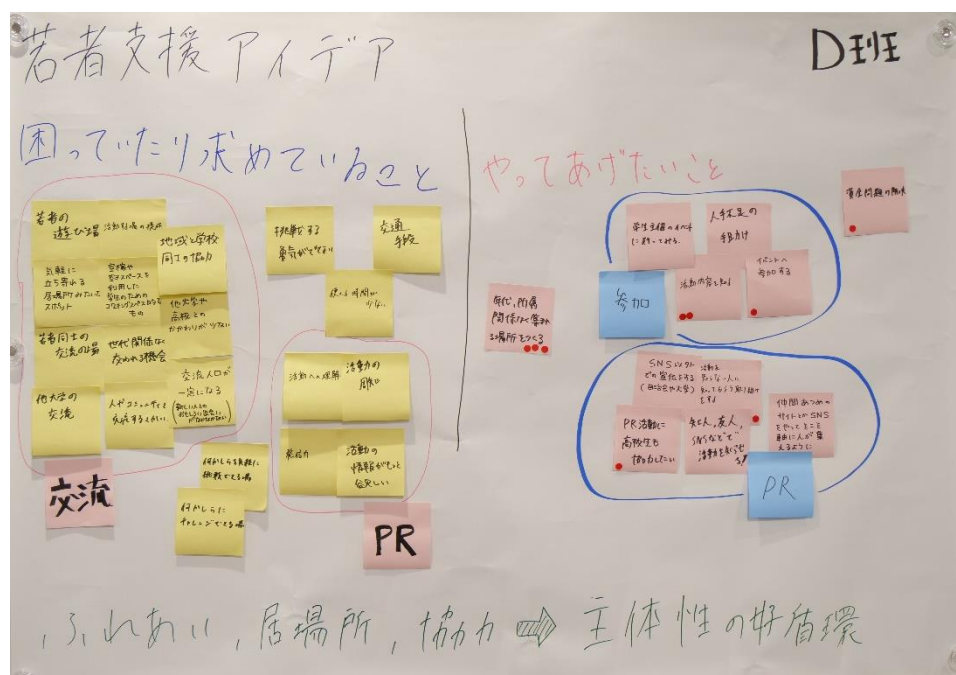
図表 20 発表用模造紙② (B 班)

<C班> 困っていること：	・様々な団体間のかかわりが少ない。 ・良い活動が知られていない。 ・魅力的な就職先が少ない。 ・安定した雇用の方が欲しい。 ・若者が集まり、遊べる場所が欲しい。 ・同じ考えや目的を持つ人が繋がる場所が欲しい。 ・活動のための資金が不足している。
やってあげたいこと：	・活動を周知する場を作り、情報を発信する。 ・自分から活動に参加する。 ・チャレンジする場を作る。 ・支援する側とされる側をマッチングする場を作る。 ・甲府の情報をまとめて得られるウェブサイトを作る。 ・募金活動を行う。



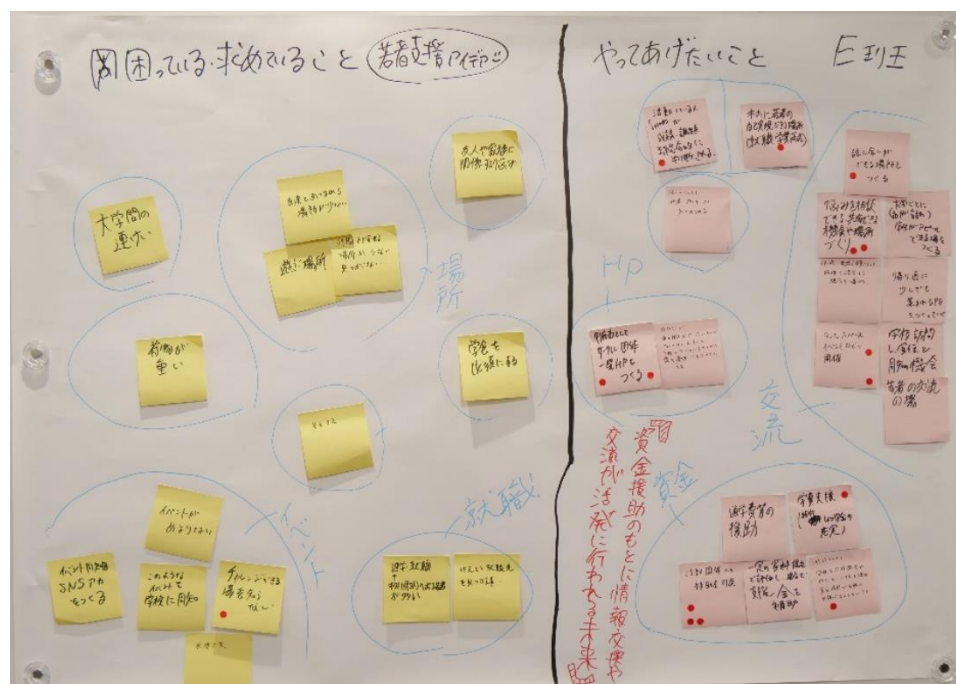
図表 21 発表用模造紙② (C班)

<D 班>	
困っていること：	・若者の遊び場が少ない。 ・活動する場所が欲しい。 ・地域と学校の協力関係が薄い。 ・気軽に立ち寄れる場所が欲しい。 ・若者同士が交流する場所が欲しい。 ・世代関係なく交流できる場所が欲しい。 ・他大学や高校とのかかわりが薄い。 ・活動の周知がされていない。 ・交通手段が欲しい。 ・挑戦できる場所が欲しい。
やってあげたいこと：	・年代所属関係なく集まれる場所を作る。 ・イベントに参加する。 ・人手不足に対する手助けをする。 ・SNS、SNS 以外それぞれで団体の PR を手伝う。 ・仲間集めのウェブサイトや SNS を運営する。 ・居場所づくりをする。 ・活動資金不足を解消する。



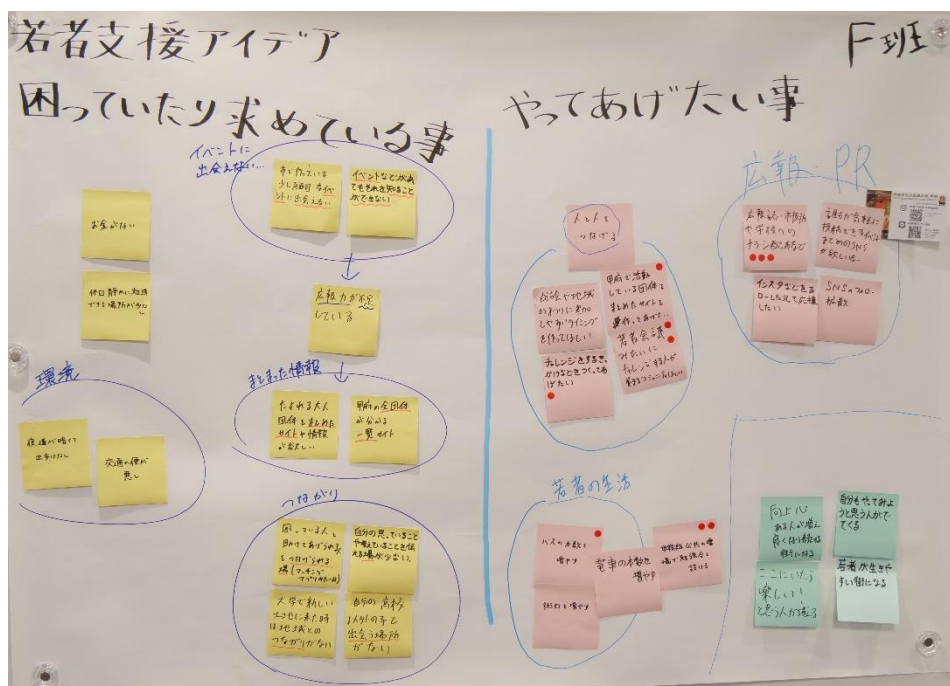
図表 22 発表用模造紙② (D 班)

<E 班>	
困っていること：	・大学間の連携がない。 ・場所（集まれる場所、遊ぶ場所、仲間を探せる場所）がない。 ・イベントが知られていない。 ・チャレンジする場がない。 ・友人関係や家族関係など人間関係の悩みがある。 ・進学や就職で若者が県外に出てしまう。 ・地元企業の情報がない。
やってあげたいこと：	・進学就職等で若者が自己実現できる場所を作る。 ・情報を伝えるホームページを作る。 ・甲府市としてサークルや団体の一覧を作る。 ・話し合いや悩み相談ができる場所を作る。 ・交流できる場を作る。 ・イベントを開催する。 ・活動する団体を金銭的に支援する。 ・通学費や学費の支援をする。



図表 23 発表用模造紙② (E 班)

<F 班> 困っていること：	・お金がない。 ・休日静かに勉強できる場所がない。 ・イベント情報がない。 ・広報力が不足している。 ・頼れる大人や団体をまとめた情報が欲しい。 ・他の学校の生徒と知り合う機会がない。 ・困っている人を助ける場や意見を発信する場がない。 ・大学から甲府に来た場合に地域とのつながりがない。 ・集まって過ごせる場がない。
やってあげたいこと：	・甲府で活動する団体をまとめたウェブサイトを作る。 ・自治会や地域のお祭りに参加する。 ・若者会議を実施する。 ・チャレンジするきっかけとなる場を作る。 ・行政からの情報発信を手伝う。 ・SNS のフォローや情報発信をする。 ・バスや電車の本数を増やす。 ・公共の場で勉強会をする。 ・向上心のある人が増え続ける街にする。 ・ここにいたら楽しいと思える街にする。 ・自分もやってみようと思う人が出てくる環境を作る。 ・若者が生きやすい街にする。



図表 24 発表用模造紙② (F 班)

3.4. 意見のまとめ（困っていることとやってあげたいこと）

若者がまちや地域でチャレンジする上で困っていることとして、イベントや活動などチャレンジしていることがうまく発信されておらず、周りからの協力や参加を得られていないという意見が数多くありました。

また、活動するための資金が不足しているという意見も多く見られたほか、若者が交流する場も不足しているとの意見もありました。

そのほか、魅力的な就職先が少ない・知られていないために、域外へ若者が流出することを懸念する意見もありました。

チャレンジする若者にやってあげたいこととしては、若者会議などのイベントの実施や相談ができる場所を作ること、若者が情報を発信しネットワークを構築できる「つながりの場」を創出するといった意見が多くみられました。

また、運営側ではなく、まずは既存のイベントやボランティア活動に積極的に参加したいという意見もありました。

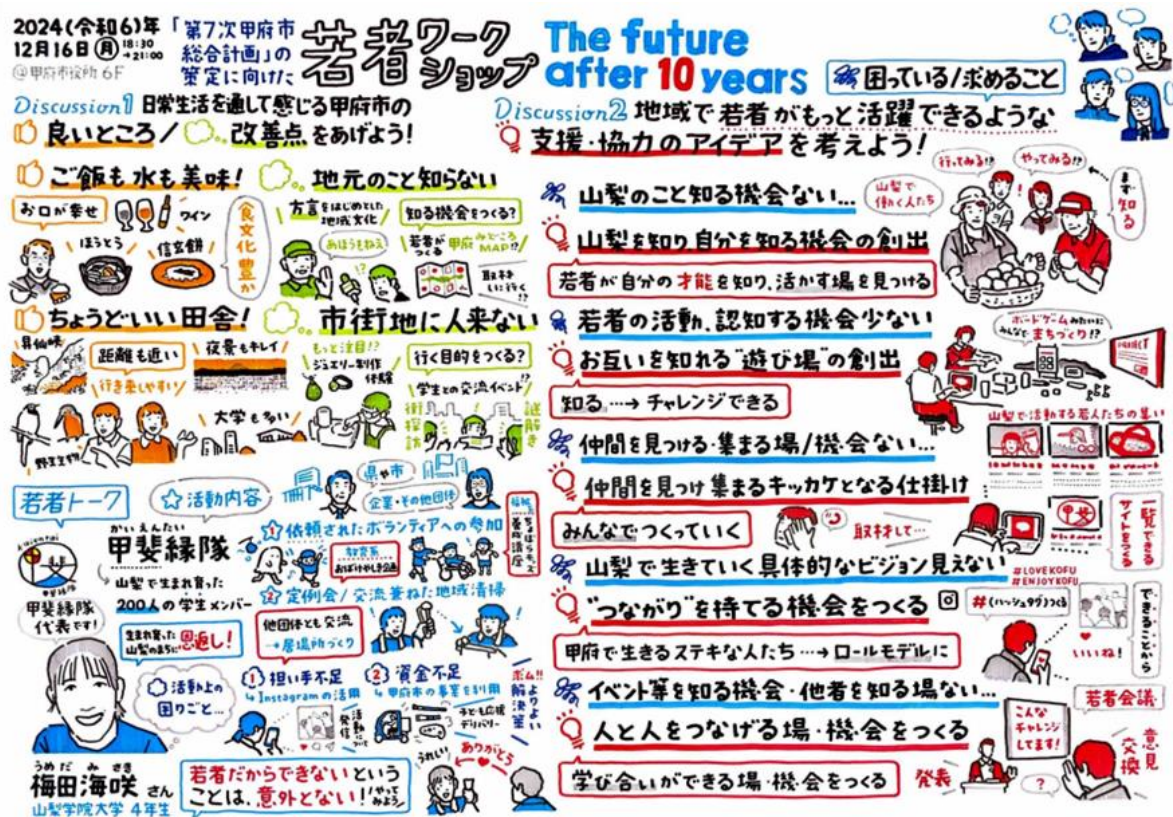
他にも、良い活動などが知られていないという課題を解消するために、自らが情報発信をする側として貢献したいという意見も見られました。

<主な意見>

困っていること：	・ イベント、活動が知られていない。 ・ 活動資金が不足している。 ・ 交流する場が不足している。 ・ 魅力的な就職先が少ない、知られていない。 ・ 進学・就職で若者が流出してしまう。
やってあげたいこと：	・ イベント、交流の場を作る。 ・ イベント、ボランティアに参加する。 ・ SNS 等を使い情報発信を行う。

3.5. グラフィックレコーディング

今回のワークショップでは、グラフィックレコーディングという技法を用いて、ワークショップの様子を記録しました。



図表 25 グラフィックレコーディング

3.6. 閉会の挨拶

企画総室雨宮室長からワークショップ参加者に向けて、各グループから頂いた意見の感想と、今後の総合計画への反映方針についてお話し、閉会の挨拶をいたしました。



図表 26 閉会の挨拶の様子

4. 参考資料

4.1. 集合写真

ワークショップの最後に、参加者全員で記念撮影を行いました。



図表 27 集合写真